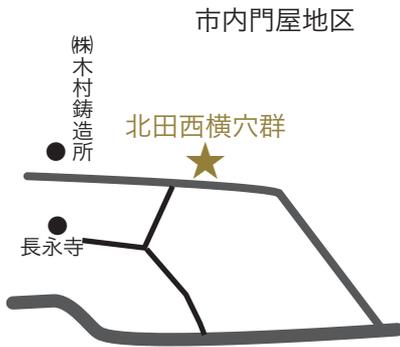




▲北田西横穴群開口状況



埋蔵文化財包蔵地  
**北田西横穴群**

# History

キラリを再発見

## 竹林の奥にある大規模横穴

北田西横穴群は、門屋地区北田集落の西端に位置する丘陵の斜面にあり、4基の横穴で構成されています。

発見時期は不明ですが、昭和48年当時の「静岡県埋蔵文化財包蔵地カード」の記述に北田殿屋敷支群という名前が記されており、かなり昔からその存在が判明していたと思われます。

現在、3基は現地で確認することができませんが、丘陵の東側斜面に立地していたことが記載されています。第1号墳の玄室は4×4㍍の方形、第2号墳は幅4.3㍍と記されていますが、第3号墳については規模の記載がありません。残存する横穴は丘陵南側の竹林の奥にあります。平面形がつぼ形で、断面形がドーム状、幅2.7㍍、高さ1.6㍍、全長4.9㍍とかなり大きな横穴です。4基とも発掘調査をしていないため、副葬品などについては不明です。

照 会 社会教育課 回0548㉓1129

# Atomic

暮らしと原子力

## 浜岡原子力発電所の 新規制基準への対応と耐震評価

◇新規制基準への対応  
・原子力規制委員会が現在策定中で7月に施行されることとなつている新規制基準に対し、速やかに適合するよう必要な対応を進めている。  
・平成26年度末を目標に次の対策を実施する。

1. フィルタベント設備などの3、4号機に対するシビアアクシデント対策。(5号機は具体策を検討中)
2. 原子力規制委員会の規則条文案を踏まえた遠州灘と通じている取水槽などから海水があふれるのを防ぐ対策。

◇地震動の影響評価は内閣府の強震断層モデルに基づき地震動を評価した結果、最大で1000ガル程度となり、3～5号機の安全上重要な施設の耐震レベルと同程度となつた。

・平成21年の駿河湾の地震で5号機は他号機に比べて揺れが大きかつたため、主要因となつた低速度層の増幅を含めた仮想条件で地震動を評価した結果、最大1900ガル程度となつた。  
・今後、新規制基準を念頭に置いて、5号機やその周辺の安全上重要な施設を中心に、より一層の耐震性向上のための必要な対策を進めていく。

・現在実施中の津波対策工事も、耐震性の精査や必要な設計見直しを図るため、対策完了目標を平成26年度末に見直すこととした。